

# 時代と共に変化する陸上



ロボットでなくして人間が…

# 人が消えた!?

陸上競技の歴史に新時代

## 公認審判員の不足…



今年度から陸上競技大会の審判員、補助員などの仕事はすべてAIロボットに代わることに決まった。理由として競技人口の減少や、公認審判員の高齢化が進んだことがあげられる。今までの陸上競技大会はすべて人間によって運営されていた。記録の測定や表示、選手のリレーやスタート合図、フライングチェックなど多くの仕事があり、多くの人の力を借りる必要があった。そして、近年の課題として審判員の高齢化が進んでいるという問題があり、様々な解決策が提案され、実際に行われてきた。

例として、2021年に行われた東京オリンピックでは観客の誘導にAIロボットが使われた。また、投擲種目の砲丸投では、砲丸を回収するスタッフにアシストシートが適用され、やり投では、槍の回収にトヨタ自動車開発の自律走行車が使われた。もう一つの取り組みとして高校生でも研修に参加すると公認審判員になれるようになった。高校生は学校ごとに補助員の仕事に分けられていたが、公認審判員としての活動が始まったのは2021年度が初めてであった。

今までの変化を振り返る…

## 記者のコメント

学生時代に競技者として陸上競技に取り組んでいた身としては、今回のAIロボットの導入により競技者以外の人間が競技場からいなくなってしまうのは少し寂しい思いがある。私が学生だったときは、審判員の方がアドバイスをしてくれたり、応援してくれたり、何気ない会話をした。それが大会の楽しみの一つでもあった。たしかに、AIロボットを導入すれば色々な費用をカットでき、スムーズな運営によって大会が行われていくだろう。今回の取り組みによって、スポーツの現場は常に時代とともに進化していかなければいけないのかもしれないと改めて思った。

